第１回在宅医療・介護スクラム塾（多職種連携研修会）

福法倫が斬る！？「脱」困難事例 ～どうしようを解きほぐすヒント～

テーマ：『支援者の説明や助言が届きにくい?? ～共に暮らしたいと願う一途な想い～』

講　師：沖縄大学 人文学部 福祉文化学科 教授／社会福祉士　玉木 千賀子　氏
ゆいま～る法律事務所　弁護士　寺田 明弘　氏
琉球大学病院 地域・国際医療部　臨床倫理士　金城 隆展　氏

○日　時：令和６年６月４日（火）　午後７時００分～９時００分
○場　所：那覇市医師会・４階ホール
○参加者：６０名（医師３名、看護師７名、保健師３名、薬剤師８名、リハビリ４名、栄養士１名、ケアマネジャー・ケアプランナー１５名、介護職６名、ＭＳＷ２名、社会福祉士５名、その他６名）



司会：嘉数 朗 氏

【目的】困難事例を多角的に学び、複雑な問題に直面したときの対処能力を向上させます。
困難事例との出会いで新たな経験を得ることで、学びを深め自己成長を目指しましょう。

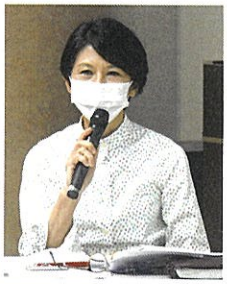
【対象】医療・介護関係者

【方法】事例＋問い、グループワーク（事例検討 ⇒ 多職種それぞれの視点から意見交換）

【考察】参加者より、「今まで“福・法・倫”を別々に考えていた。今後は３つの視点も念頭に考えていく必要があると感じ、明日からの仕事の仕方を考えていきたい」、「最大限の倫理、最低限の倫理の間を行ったり来たりしつつ最大限の倫理に近づく仕事ができたら（支援）幸せが広がりそう」、「多職種との話し合いをすると同時に、当事者（周りを取り巻く環境も含めながら）を中心に考えていくことを改めて動けるようにしていきたい」、「適切な助言や情報を得ることができた。視点を変えるポイントを得ることができて、目からうろこでした」などのご意見があった。中には「最低限の倫理は守られたのか？居宅の管理者をしているが、担当者を守りながら自分自身も含めてレベルアップも考えたいがどのようにサポートできるかを考えてしまった」というご意見もあり、管理者としての苦悩、またそれに向けてどう改善していくかを考えさせられる研修会になったのではないかと考える。一つの困難事例に対して福祉・法律・倫理の専門家からの視点の助言、参加者からの活発なグループワーク発表もあり、非常に有意義な学びの多い研修会になった。

福法倫が斬る!?「脱」困難事例
～どうしようを解きほぐすヒント～

【講師】沖縄大学 福祉文化学科 教授 社会福祉士 玉木 千賀子 氏



【講師】ゆいま～る法律事務所 弁護士 寺田 明弘 氏



【講師】琉球大学病院 地域・国際医療部 臨床倫理士 金城 隆展 氏



全体風景









グループワーク および 発表

令和６年度　那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第１回　在宅医療・介護スクラム塾　『福法倫が斬る！？「脱」困難事例　～どうしようを解きほぐすヒント～』　アンケート結果

日　時：令和6年6月4日（火）　19：00～21：00

場　所：那覇市医師会・4階ホール

テーマ：『支援者の説明や助言が届きにくい？？　～共に暮らしたいと願う一途な想い～』

講　師：玉木 千賀子 氏（社会福祉士）、寺田 明弘 氏（弁護士）、金城 隆展 氏（臨床倫理士）

参加者：60名（医師3名、看護師7名、保健師3名、薬剤師8名、リハビリ4名、栄養士1名、介護職6名
ケアマネジャー・ケアプランナー15名、MSW2名、社会福祉士5名、その他6名）

アンケート回答者：54名（回収率90%）

1．経験年数について

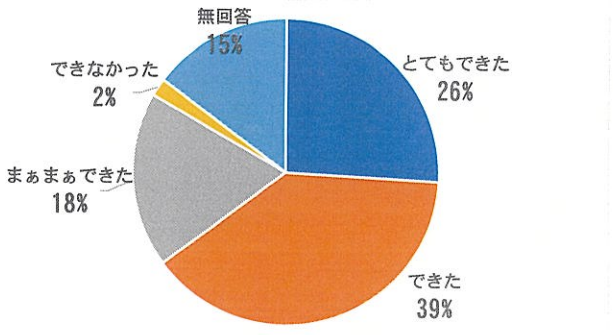
経験年数	人数	割合
1年未満	0	0%
1～5年未満	7	13%
6～10年未満	14	26%
11～20年未満	13	24%
21～30年未満	12	22%
31年以上	7	13%
無回答	1	2%
総計	54	100%

2．職種の内訳

職種	人数	割合
医師	0	0%
歯科医師	1	2%
看護師	6	11%
保健師	3	6%
薬剤師	8	15%
栄養士	1	2%
MSW	2	4%
ケアマネジャー・ケアプランナー	15	28%
リハビリ	3	6%
社会福祉士	6	11%
介護職（ヘルパー等）	4	7%
歯科衛生士	1	2%
その他	3	6%
無回答	1	2%
総計	54	100%

3．グループワークでは、ご自身の意見を遠慮なく発言することができましたか。

選択肢	人数	割合
とてもできた	14	26%
できた	21	39%
まぁまぁできた	10	18%
できなかった	1	2%
無回答	8	15%
総計	54	100%



令和６年度　那覇市在宅医療・介護連携推進事業

第１回　在宅医療・介護スクラム塾　『福法倫が斬る！？「脱」困難事例　～どうしようを解きほぐすヒント～』　アンケート結果

＊グループワークに関するご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせください。

・皆さんの視点（職業）で、ハッとすることがありました。
・多職種の視点、考え方が参考になり大変勉強になりました。
・多職種連携の様々な意見の醍醐味を実感することができて楽しく学ぶことができた。
・多職種交えてのグループワークは、事例を通して色んな考え方や捉え方があり、すごく私自身の考え方などを見直すこともできました。
・やさしい意見を聞くことが出来て良かった。多職種の意見が新鮮でした。
・いつも会わないメンバーとの話は刺激的でした。
・とても良い意見が多く聞けました。
・様々な職種の視点からの意見を聞くことが出来て勉強になりました。
・多職種でのグループになっていたため、各々の視点で意見を出しディスカッションできたのは収穫が大きい。
・生命の安全と家族の幸せを考えることができた。
・グループ全員から発言などが挙がったので素晴らしかったです。色々な視点で考える大切さに改めて気づいた。
・多職種の方が参加されていて、とても刺激のあるグループワークになり勉強になりました。
・時間配分も良かったです。
・久しぶりに参加させて頂きました。ありがとうございました。グループで話し合い出来る環境でした。
・グループを引っ張っていく方がおられたのでとても話しがやりやすかった。自分の意見はそもそもあまり持っていなかったため控えめになった。
・沢山の意見が聞けて良かった。職種、経験で視点の幅が違った。周りとの距離が近くてグループの声が聞こえにくかったのが残念だった。
・多職種でグループディスカッションできたので、いろんな気づきと学びを得る事ができた。
・緊張感はありましたが、皆さんが気兼ねなく発言できて良かったです。
・医療の視点や地域包括の視点を確認でき良かった。
・話し過ぎたかもしれません…とても発言しやすかったです。
・色々な人の視点から意見が聞けた。
・皆さん活発に意見を述べられていて色んな立場からのご意見が参考になりました。
・人数もちょうど良かったです。
・包括、ケアマネさんと関わることはあっても、まだまだ知らない業務、世界に感じた。介護に関する知識を身につける必要があると痛感しました。
・事例が難しかったが、グループ内で色々意見が出て凄いと思いました。
・色々な職種で協議して、沢山のヒントがあり良かった。
・様々な職種の視点、工夫の方法を聞くことができ、とても貴重な機会になりました。
・それぞれの職種の視点からの意見が聞けてとても勉強になりました。自分では考えもしなかった意見や支援の仕方が聞けた。
・違った職種の方とのグループワークは続けて欲しいと思います。
・初めての研修参加でとても緊張しましたが、皆さんとても話しやすい方々ばかりで色々なことを教えて頂きました。
・専門的な部分で意見は出せなかったが、別の視点が感じられました。
・多職種ならではの多くの意見が聞けたので良い機会となった。
・介護職の方々の優しさと逞しさに人として近づきたいと思いました。

４．3名の講師へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

・参加者からの意見への講師からのコメントや専門的立場での意見もすごく良かったです。
・今日研修を受けて、今まで「福・法・倫」を別々に考えていたように思いました。今日学んで、3つの視点も念頭に考えていく必要があると感じ、明日からの仕事の仕方を考えていきたいと思いました。
・最大限の倫理、最低限の倫理の間を行ったり来たりしつつ最大限の倫理に近づく仕事ができたら（支援）幸せが広がりそうです。
・3者の違いを興味深く聞いていました。あとでノートを読み返してまた味わいたいと思います。
・視点が違って面白かった。
・各職種の意見が分かれており良かった。別の視点。
・3名の講師の方々、貴重なご意見をありがとうございました。
・様々な専門家からの意見は理想と現実には思うようにいかないこともあるが、それをどう繋げていくのか考える機会となりました。
・福祉・法律・倫理各々の視点でのコメントが聞けたのはとても良かった。専門職の視点によって方向性が異なったところも勉強になりました。立ち止まって皆で検討することの重要性も改めて感じました。
・福・法・倫それぞれの視点から整理して頂きわかりやすかった。また「本人を中心に」という共通することも改めて確認できた。
・法律・倫理・福祉の視点（声）が聞けて大変「ため」になりました。多職種との話し合いをすると同時に、当事者（周りを取り巻く環境も含めながら）を中心に考えていくことを改めて動けるようにしていきたい。
・それぞれの立場からのご意見でとても勉強になりました。楽しかったです。
・全てためになりました。
・個別で事例について相談したい。
・今回のケース事例③までで、最低限の倫理は守られたのか？居宅の管理者をしていますが、担当者を守りながら自分自身も含めてレベルアップも考えたいがどのようにサポートできるかを考えてしまいました。
・とても歯切れよく説明、指導してくれました。分かりやすかったです。
・それぞれの立場で率直な意見が聞けて良かった。最低限守るべきこと、そこから広げる支援について、本人を中心としてもっと理解を進めて関わっていきたいと思う。
・適切な助言や情報を得ることができた。視点を変えるポイントを得ることができて、目からうろこでした。
・臨床倫理、弁護、ヴァルネラビリティそれぞれが複雑かつ総合的に重なり合っていると感じた。
・玉木先生、寺田先生、金城先生とそれぞれの立場からのお話とても興味深かったです。1つの事例で様々な読みどころ（聞きどころ）がありました。
・あまり考えていなかった法的な立場からの見方が知れたことはとても良かった。
・3者の立場の違いからの意見を興味深く拝聴しました。
・非常に有意義な、福祉・倫理・法律の視点からのご助言大変参考になりました。
・後見人の事をあまり知らなかったので知れて良かった。
・法律の観点からお話を聞くことがなかったので新しい視点で考えることができた。
・3名の先生方、それぞれのコメントで参考にすることがあった。玉木先生のコメントが良かったです。
・医療や介護の視点からではない見方を教えて頂き大変勉強になりました。

・ご本人の意思を大切にする基本を改めて感じました。個人情報の取扱いについて勉強になった。
・新しい視点を取り入れることができた。
・本人の視点、意思の確認の重要性について改めて考えることができました。
・究極のご意見が聞けたと思います。
・それぞれの立場から事例を見ると視点が異なりますが、当事者の意向を中心にというところは一致していたと思います。
・後見人選定までの時間と、今目の前で起きていることに対処することの難しさを感じました。
・専門職それぞれの視点で興味深かった。
・それぞれの先生たちの話はとても分かりやすくとても勉強になりました。
・福法倫それぞれの立場での解説があり勉強になった。
・最低限の倫理、最大限の倫理、後見人の立ち位置について初めて聞くお話で大変興味深く勉強になりました。ありがとうございました。
・福祉の側の人間なのですごく理解できた。
・専門家の見地から様々な考え方があると勉強になりました。

５．本研修会全体へのご意見・ご感想等がありましたら、お聞かせ下さい。

・積極的にグループワークができ良かった。
・那覇市の特定施設入居者生活介護（サービス付き高齢者向け住宅）で就労している立場から、どんどん事例検討会等の研修を企画して欲しい。
・3名の先生方、事務局のスタッフの皆さん、準備・運営ありがとうございます。
・法律の視点、福祉の視点、倫理の視点が今している仕事、支援の言語化に繋がりました。
・別事例での研修（困難）も受けたい。
・またの機会にも参加し、自身の職務にも活かしていきたいと思う。
・参加して良かった。企画・運営して下さったスタッフの皆様お疲れ様でした。
・素晴らしい講師陣でした。企画ありがとうございます。
・とてもいい研修になりました。ありがとうございました。
・現在進行している事例なので夫が心配です。
・今回の形での研修、とても良いと思いました。実践に活かされ、改めて考えるきっかけとなりました。
・とても勉強になりました。多様なケースへの支援のために導入の道標はできました。
・久々のグループワークは楽しく良い時間でした。ありがとうございました。
・集合でできてありがたいです。これからもよろしくお願いします。
・今まで対面したことのない事例でとても考えさせられた。
・難しかったが勉強になった。
・初めての参加でした。また受講したいです。
・色々な方の意見、考え方を知ることが出来、新しい視点を持つことができました。
・学びの多い研修でした。また参加させて下さい。
・色々な職種と話すことによって視野が広がり、現場に繋げることが出来る。先生方の話を聞いて、確認する順番が理解できた。一人の人を支援していく。
・初めて研修へ参加しました。楽しく学べました。
・とても良い時間になりました。また参加したいと思いました。
・参加の機会ありがとうございます。
・ZOOMよりも現地でのグループワークが良いですね。

６．本研修で取り上げて欲しい困難事例がありましたら、お聞かせ下さい。

・入浴拒否、内服拒否をされている方へケアサービスをする際に介護職が暴力を受けるため、キーパーソンの息子に参画して頂き対応している現状です。
・身体拘束をしてしまう理由、ハラスメントをしているつもりがないなど、ハラスメントにあたるポイント（カスタマーもあるけど支援者のもの）。
・今日の事例のような多問題世帯（色々なケース）への支援法をそれぞれの専門職から聞いてみたいです（成功事例や困難ケース含め）
・身寄りなしor家族が県外、外国にいて本人が認知症の場合の支援など。
・DX（デジタルトランスフォーメーション）。多職種の電話のやりとりだけで半日取られることもあり。うまく活用できないか考えていきたい。
・ヤングケアラーについて
・外国人支援について
・介護サービスを受けている精神病の方について
・身寄りがない方への支援について
・仕事を持っている（自営業）方の認知症ではないか？という疑いからの関わり（家族の関わりなし）について
・アルコール関連問題について